

本人支援	活動内容	具体的な支援内容	ねらい・目的・具体的な方法
健康・生活	体温のチェック	本人または指導員による、送迎乗車時・登所時の体温チェックと記録	指導員または本人が検温した時、「〇〇、〇度、ちょうど良いね（少し高いね）」等のコメントを添えたり、体温を自分で記録ノードに記録してもらう事で、自分の体温の把握や、健康への興味や知識を増やしていく
	調理実習を通じた生活スキルの獲得 ※「運動・感覚」の料理作り参照	メニューを決める 食材の買い物 調理用具を使って調理する	必要な食材を知る。栄養のバランスを考える。自分が食べたいもの好きなものを知る 食材リストを見ながら食材を探す。レジに並び、自分で支払う。購入したものを持ち帰る
	学休日の昼食の購入体験	コンビニやスーパーで自分で自分の昼食を購入する	自分がその日の体調や気分、何を食べてみたいかを考え選択し、レジに並んで購入し、お釣りをもち帰る体験をする
	食事やおやつ摂取状況の家族への報告	連絡帳や送迎時の対面での情報共有・メール・電話での報告	何を、どれくらい、どういう様子で食べたかを報告し、ご家庭での食事に役立ててもらったり、ご家族からのアドバイスを得ることでメニューやお菓子選びの参考にする
	食物アレルギーへの対応	情報を共有し、おやつや調理の提供時のアレルギー物質の除去	アレルギーの有無について事前に調べ、調理メニュー決めや、おやつの提供時にアレルギー物質が含まれないように排除する
	食事の介助	見守り、フォーク・スプーン・箸の使用の促しと指導	カトラリーや食器の使い方が身につくように、見守り、具体的に必要な支援を行う。「無難運動」を意識して対応する
	水分摂取	水分摂取の声掛け、水筒への補充、水筒を忘れた人への提供	脱水や熱中症の予防。一日の中で、何を、どれ位、どのタイミングで水分を飲めばよいかを説明することで理解を促す
	排泄の介助	見守り、声掛け、誘導、汚れた下着や紙パンツの取り換え	アプリで排泄をする。紙パンツから布パンツへの移行がスムーズに行えるように、家族・学校・他事業所と連携する
	着替えの介助（適切な着衣による体温調整を含む）	見守り、声掛け、できない部分の服定的な手伝い、全介助による着替え	排泄の失敗時の着替えの支援。水遊びイベントの時の着替えの手伝い。服の量方の指導。季節に応じた衣服の理解を促したり、体温調整の大切さが理解できるようにする
	生時時の衛生用品の装着や取り換えの介助（依頼を受けた場合）	見守り、声掛け、できない部分の服定的な手伝い、全介助による取り換え	ご家庭と連携して生時期間を把握し、本人ができない部分を手伝う。トイレでの取り換えの促しやマナーの説明
運動・感覚	自分の昼食の買い物	スーパーやコンビニに一掃に行き、適切な金額の範囲内で自分で購入する体験	お金をもってお店に行き、自分が食べたいものを自分で考えて、お金払ってお釣りをもち帰る体験から、社会に出て必要になる、自分の生活に必要なものを、自分で購入する力が育つ。
運動・感覚	運動（体全体を使う運動）	ボール遊び、鬼ごっこ等の集団遊び、道具を使った遊び、ダンス等	①異なる身体部位を動かして動かす協調運動を通して、脳の活性化と神経回路の強化を行う（視覚・聴覚・触覚の感覚情報の統合。左右の体半分の連携による協調的な情報処理能力の向上。運動の計画と実行により前頭葉の機能強化を図り、日常生活での自立力を育てる。脳内シナプスの強化により、神経回路が形成され、学習能力の向上を図る） ②子どもが生き生きと運動に取り組み、楽しいと感じる事で、ストレスを発散する ③チームで協力するスポーツや、役割を持ちながら参加する遊びを通して、「仲間と一緒に頑張る楽しさ」の体験や、楽しい時間を共有することにより「自己肯定感」が高まる ④現地まで歩いて移動する中で、歩くために必要な体力が付き、安全に歩くために必要なスキルが自然に身に付く
	料理作り ※「健康・生活」の調理実習を通じた生活スキルの獲得参照	料理を通して、食に対する関心を高め、将来の自立に必要な力を育てる	①料理に参加し、食材が変化するときを見ることが、食べ物への関心を育てる ②調理用具の使い方を知り、食材を切る、混ぜる、炒める、等の体験を楽しみながら行う中で、将来の自立に必要な技能を身につける ③皆で協力して料理をし、時間をかけて完成して、皆で食べることを通して、協調性を伸ばし、成功体験を通して自己肯定感を育てる ④包丁やビュラー、スライサー、お玉、ホイッパー等の調理用具を使う中で、「手や指の協調運動が向上する」 指先を使うことで「指先の精巧性（細かさ）」を高め、脳の活性化や発達を促す
	工作	指先を使って「切る・折る・丸める・貼る・描く・塗る・ちぎる」などを行う	①紙、テープカッター・ハサミなどの道具を使うことで、道具の使い方や、力加減を覚える ②絵を書くことで、画材・描きたい絵のイメージと具体化、描きながらの工夫を通して、想像力を育てる ③紙の組んだ場所にシールなどを貼る動作から、目と手の協調運動の力を育てる ④クリスマスリースなどの季節の少し手の込んだ工作を行うことで、「達成感」を感じられ、家に持ち帰って言われる体験から、「自己肯定感」が育つ ⑤指先を動かすことで、「集中力」が向上し、脳の活性化して、運動能力や言語能力が高まる
	音楽	音楽を楽しむ（歌やダンスのDVD、電子ピアノ、ダンス部でダンスを踊る）	音楽を楽しむことで、言語によるコミュニケーションや自己表現、集中力、想像力・集中力や認知力、協調性を育てる ①音楽は非言語的なもので、言葉が苦手な子どもにも親しみやすく、受け入れやすい ②楽しく行うことで、ストレスの発散になり、自己安眠感を高められる ③楽器の演奏や、一緒に歌を歌う事、音楽に合わせて踊ることを通して、人と合わせたり、他社と関わる活動をする ④音楽を通して、自分から表現したり発信する苦手を減らすことができる ⑤音楽に合わせて、リズム運動や歌うことで、体の協調性やコミュニケーション能力が高められる
	指先を使う玩具遊び	粘土遊び、紐通し、積み木、ブロック、組み組みスロープ、プラレール等の玩具で、「指の巧緻性」を高める	①粘土で遊ぶ（つまむ・伸ばす・丸める・押しつぶす等）ことで、力加減や想像力や想像力を伸ばす ②積み木やブロック、組み組みスロープで遊ぶことで、物の高さや長さ、位置関係などの「空間認知能力」や、「集中力」「根気強さ」や「想像力」が育つ ③プラレールや組み組みスロープを自分以外のひとと一緒に遊ぶことで、協調性やコミュニケーション能力が育つ
認知・行動	おやつ（順番に並び・予算内で選ぶ）	おやつを選ぶために、一列で並んで待つ 30階層位のおやつの中から、予算（70円）内で食べたいものを選ぶ	列に並んで待つことを通して、順番を守る事を学ぶ機会になり、社会的なルールを守る機会を提供する 自分が食べたものの考え、食べたものの優先順位をつけて、予算内で選ぶことを通して、「優先順位をつける力」「選択する力」、「諦める力」を伸ばし、「決断力」や「主体性」を育て、感情のコントロールの力を伸ばす。
	ゲーム（人生ゲーム・カードゲームなどのルールのある遊び）	簡単にできるカードゲームや、人生ゲームなど、各児童の発達に合った遊びを提供する	ルールのあるカードゲームを通して、 ①記憶力や、論理的思考力、状況判断や最適な手立てを考える能力を養う ②集中力や反射神経を養う ③柔軟性や想像力、協調性やコミュニケーション能力、自己制御や適応能力を高める ④最後までゲームに参加する中で、目的達成や成功体験を体験することができ、自己肯定感や自信を高める
	プラレールで遊ぶ ※「人間関係・社会性」のプラレール参照	レールを組み立てる、線路を走らせる、友達と遊ぶ	①レールを組み立てたり、電車を接続しレールに載せたり、走らせることで「目と手の協調運動」が向上する ②様々なパーツや電車を組み合わせる中で、物理的な空間の理解や想像力を駆使し「空間認知能力」が向上する ③線路のデザインを考え、電車を配置することで、「計画性」と「実行能力」が向上する ④プラレールを使って、自分の中でストーリーを作成してドラマを演じることで、「想像遊び」を促進する ⑤複数の子どもで共に遊ぶことで、共同作業、協力、コミュニケーションスキルを発展させ、協力することで「社会性」を伸ばす
	お絵描き、紙を切ったり貼ったりする遊び	指先を使って、絵を描いたり紙を切ったり貼ったりする	①手先の器用さが向上する（※「運動・発達」を参照） ②指先を使うことで脳が刺激されて脳の発達を促し「思考力」「記憶力」「運動能力」「言語力」が向上する ③指先の繊細な動きを通して「集中力」が高まる
	クラブ活動	クラブ活動のミーティングに参加して、自分がやりたい活動を選んで参加する クラブ活動のミーティングの司会に取り組み、人前で話す体験をする	①ミーティング開始時間を予め伝え、タイマーが鳴ることで、行動の切り替えのタイミングをわかりやすくし、上手に切り替えられた成功体験を通して、「自己肯定感」が向上し、「気持ちのコントロール」の力が伸びる ②その日毎に、今日参加したい活動を選ぶ体験を通して、「自己選択」「自己決定」「自己決定」の力を伸ばす ③30分間参加することで、「集中力」や「根気力」を伸ばす ④スタッフは、一人一人の状況や、現在の課題を分析して、必要な人に対して、適切なタイミングで「司会」をお願いする。 ⑤練習をしたり、言葉に詰まった時に助けるなどの支援を行い、最後まで取り組み「成功体験」を積み上げ、「自己肯定感」が育つようにする
	送迎車に乗る前、椅子に座って待つ	送迎車に乗る前に、靴を履いた後、椅子に座って名前を呼ばれるまで待つ	①座っている間、頻繁に「座っていられるね」「すごいね」と褒められる事を通して、「自己肯定感」が育つ ②椅子に座る時の姿勢を意識する（「手はお膝」など）事で、体幹の力を育てる ③座って待つ体験を繰り返す中で、「感情や衝動のコントロール」の力が育つ
	終わりの会や、イベント開始前の集合	タイマーが鳴ったら、ホワイトボードの前に集合する	①事前に時間を伝え、タイマーをセットする事で、遊びの途中でも切り替える力がつく ②終わりの会の開始時間は17:15集合と決まっているので、スケジュールを理解し、見通しを持って行動する力がつく
	自由遊びの時間に自分のやりたい事や遊びをする	長くまとまった自由時間を使って、自分で考えて、やりたい事ができるように支援する 工作材料やゲーム等のオモチャを、意図的に事務スペースに保管し、本人からスタッフへ「〇〇を出してください」と要求してもらう	①自分で今何をしたいかを考えて行動することで、「思考力」「判断力」「決断力」「計画性」「実行機能」「主体性」が育つ ②自分がやりたいことが実現でき、楽しい時間を過ごす中で、自信となり「自己肯定感」が育つ ③スタッフは、本人が何をしたいか分かっていても、先回りせず「何が欲しいの？」「どうして欲しいの？」と質問して、言葉やカードやゼスターで伝えて貰う中で、「自分の気持ちを言葉で伝える力」「要求・発信する力」を育てる ④「紙」など単語だけで要求してきた時は、「そういう時って、なって言うんだっけ？」と促し「紙を出してください」と言い直すことで、人に自分の希望を伝える時の言い方を体験して貰う（注：発達の段階により個別に対応する） ※スタッフが「どうぞ」と言って渡し「ありがとう」「どういたしまして」、等、やり取りの体験ができることと更に良い
	DVDを観る（主体的に観る）	自分で観たいDVDがある時に、自分で希望して観る事ができる	①「DVDを観たい」と希望があった時に、意図的に別のスタッフに希望を伝えるように促し、「自分の意志を相手に伝える練習」をして貰う ②必要に応じて事前に練習し「〇〇先生、△△△を観たいです」と言葉で希望を伝えてもらう（言葉が苦手な場合は、カードや手話やゼスターで意思が伝えられるように工夫する） ③意図的に少し待つて貰う事を通して、少しだけ待たたり我慢する体験を通して、感情のコントロールの力を育てる ④同じ時間内に、他の人もDVDを観たい希望がある時は、譲り合い、全員が短い時間で交代する事で、折り合いをつけながらDVDを観る体験が出来るように、スタッフが介入して調整する
	ゲーム（人生ゲーム・カードゲーム） ※「認知・行動」を参照 クラブ活動の司会 ※「認知・行動」のクラブ活動参照	複数の仲間と一緒にカードゲームや人生ゲームを楽しむ クラブ活動開始の時、皆の前で司会を担当する	仲間と一緒にゲームを楽しむ中で、「会話力」「コミュニケーション力」「協調性」が育つ 当日のクラブ活動の種類を説明し、参加希望のクラブを確認する体験を通して、「社会的スキル」「自己表現」の能力を高める練習となり、成功体験を繰り返すことで、自己肯定感を育てる

言語・コミュニケーション	言語の力を引き出すための意図的な声掛け	子どもの興味関心に寄り添い、先回りせず、優しいトーンで、積極的に、ゆっくりと話しかける。言葉に詰まった時は助けながら、会話を進めようとする	●ポイント ①短く解りやすい単語を使い、肯定的な表現を使って、積極的に話しかける （「〇〇でできた△△できないよ」否定語は理解が難しい。→「〇〇して△△しよう」と、肯定的な言葉を使う） ②こどもの言葉や興味に興味をもち、寄り添い反応する ③言い間違えは指摘せず、言葉に詰まった時はヒントを出すなど助けながら、焦らないで耳を傾ける ④先回りして話しかけず、ゆったりと待つ ⑤絵本の読み聞かせを行う ●方法 ①指差しやクレーンを受け入れる ②子どもが見ているものと同じものを見て、言葉で伝えたり、指差し口動きを見せながら、はっきりと言う ③絵カードや手話、お互いに通じるゼスチャーを使って、要求やコミュニケーションに繋いでいく
	コミュニケーションの力を伸ばすための意図的な関わり	コミュニケーションを円滑にし伸ばすための、指導員からの意図的な関わり ※「言葉の力を引き出すための具体的な声掛け」参照	●接し方・ポイント ①適切なタイミング：集中していたり感情的な時は避け、落ち着いているときに話しかける ②明確に簡潔に伝える：具体的に簡潔な指示をする。（「おもちゃを片づける」など、行動をはっきりと行動を伝える） ③非言語的なコミュニケーションの手がかりとして、表情・手話・サイン・ゼスチャーで感情や意図を表して説明する ④感情的に伝える：「片づけてください」が難しい場合は、「カバンをロッカーに入れる」など、具体的な行動を伝える ⑤一貫性のある指示やルールを用いて変換する ※「食事中、家で立ち歩いても良いが、アプリでは立ち歩かない」は混乱する場合、日頃から「どこでも食べるときは立ち歩かない」に統一すると、理解しやすく身に付きやすい ①遊び方を通して「一人遊び」「役割的行動」「並行遊び」「連合遊び」「共同遊び」のどの段階か”を観察し、子ども一人一人の”人との関わりを発達段階を確認する事ができる ②発達段階の合わせて、同じオモチャを複数で使う時のスキルを判断し、個別に必要な支援をする ③欲しい物を勝手に取らず、「かして」→「良いよ」のやり取りを行い、言葉で希望を伝える事、手続き（ルール）や「衝動」のコントロールの力を伸ばす（言語が苦手な場合は、手話やゼスチャー、カードなどの視覚支援を行う） ④「かして」と言っても「いやよ」「だめよ」と言われた時、諦めたり待つように促し、出来ている時に褒めスタッフがめる中で、「感情や衝動のコントロールの力」を伸ばし、「自己肯定感」を育てる ⑤スタッフが、適切なタイミングで介入する事で、仲間と楽しく遊ぶ「成功体験」ができるようにし、「コミュニケーション力」や「社会性」を伸ばし、「自己肯定感」を育てる
	ブラレールや組み組みスロープなど、複数で使えるオモチャ遊び	ブラレールを複数の仲間と一緒に使う ※組み組みスロープ」「パイブレード」参照	①遊び方を通して「一人遊び」「役割的行動」「並行遊び」「連合遊び」「共同遊び」のどの段階か”を観察し、子ども一人一人の”人との関わりを発達段階を確認する事ができる ②発達段階の合わせて、同じオモチャを複数で使う時のスキルを判断し、個別に必要な支援をする ③欲しい物を勝手に取らず、「かして」→「良いよ」のやり取りを行い、言葉で希望を伝える事、手続き（ルール）や「衝動」のコントロールの力を伸ばす（言語が苦手な場合は、手話やゼスチャー、カードなどの視覚支援を行う） ④「かして」と言っても「いやよ」「だめよ」と言われた時、諦めたり待つように促し、出来ている時に褒めスタッフがめる中で、「感情や衝動のコントロールの力」を伸ばし、「自己肯定感」を育てる ⑤スタッフが、適切なタイミングで介入する事で、仲間と楽しく遊ぶ「成功体験」ができるようにし、「コミュニケーション力」や「社会性」を伸ばし、「自己肯定感」を育てる
	組み組みスロープを複数の仲間と一緒に使う ※「ブラレール」「パイブレード」参照	組み組みスロープを複数の仲間と一緒に使う ※「ブラレール」「パイブレード」参照	①組み組みスロープを一緒に遊ぶ事で、ピー玉を転がすタイミングを考えたし、相手に譲る体験ができる ②ピー玉が使いたい時、スタッフに「ピー玉を下さい」と伝え「ありがとう」と受け取る。コミュニケーションを体験する ③遊びが終わったら、借りたピー玉3個をスタッフへ返すルールを守り、借りたものを返す「責任感」が向上する ④仲間と楽しく遊ぶ事ができた成功体験を通して、「自己肯定感」が高まる
人間関係・社会性	役割やルールのある遊びをする	ママゴト、学校ごっこなどのごっこ遊び、鬼ごっこ、人生ゲーム、カードゲームなどを行う	①様々な駒（強さや特徴が違う）を、複数の仲間と公平・平等に使う為にどうしたら良いかを考える体験が出来る ②仲間と楽しく遊ぶ体験の中で、達成感を感じられ、成功体験を通して自己肯定感を育てる ③年齢や発達の状態が違う仲間と遊ぶ時に、中心になって楽しく遊ぶ工夫をしたり、リーダー的な役割を担う中で、「他者を思いやる気持ち」「リーダーシップ」「責任感」「達成感」「成功体験」をする事ができる ④勝ち負けの体験の中から、負けたと時の感情コントロールの力を育て、負けても楽しめるようになる 上記参照
	外出する（車・公共交通機関・歩行による）	アプリの送迎車を使って外出する 電車やバスなどの、公共交通機関を使って外出する 近くの公園へスーパーマーケットなど、歩道を安全に歩いて移動できる	●目的と効果：ルールのある遊びを通して、社会生活に必要なスキルを身に着ける ①順番を待ったり、他者への思いやりや配慮を学ぶ ②遊びのなかで、コミュニケーションスキルや問題解決の力が育つ ③コミュニケーションを取りながら遊ぶ中で、言語能力や認知能力、社会性が発達する ④興味を持ち主体的に参加する中で、自己肯定感が高まる ⑤ルールを守ろうとする中で、集中力や忍耐力を養う ①盲導犬一人ではいけない場所や、家族や学校では行かない場所へ行くことで、体験の幅が広がり、視野が広がる。 ②車内でふざけない、大きな声を出さない、立ち上がらない、シートベルトをするなど、車に乗るルールを身に付けることができる ③外出先で、ルールを守りながら行動する中で、社会性が育つ 将来の就学や就職に必要なスキルを身につける事や、余暇活動の充実に繋がる力を育てる ①交通手段を使って移動できる力がつくことで、将来の自立力を育てる ②自分で駅やバス停まで歩き、切符を買ったり、運賃を支払い、乗降するスキルが身に付き、自信が育つ ③社会と触れ合う場面が多く、自然に社会性が身につく ④手帳などのサービスの使い方がわかり、制度を利用しながら、豊かな生活を送るための体験ができる
	ブラレールで友達と遊ぶ ※「認知・行動」「言語・コミュニケーション」のブラレール参照	複数の友達と、ブラレールを使って、交代したり協力しながら一緒に遊ぶことができる	①歩くことを通して、体力やバランス感覚が向上し、ストレスの発散をしたり、歩道を安全に歩く為の交通ルールが身につく ②スポーツが苦手でも、歩くことで筋力が付き、体幹が強くなり、関節の柔軟性を獲得できる ③安全に歩くために必要なスキルを獲得する中で、注意力や集中力が育つ ④集団の中で、大人やお友達と手を繋いで歩く中で、人に合わせる力がつき、協調性が育つ ⑤歩く力を育てる中で、自分の行動や感情をコントロールする力がつく ⑥道徳に並んで歩くことを通して、協調性や、自分の行動をコントロールする力が育つ
	調理の食材やおやつ、自分の昼食の買い物 ※「健康・生活」「運動・感覚」の調理（料理）を参照	コンビニやスーパーで、自分で商品を選び、レジで支払い、お釣りをもらう	【目的】 お金の計算や金銭管理ができてくても、将来社会で自立して生活するときに役立つように、買い物のスキルを身につける ①お金と欲しいものの関係が理解しやすい、自動販売機で買い物をする ②ハンバーガーやカップヌードルなど、購入するものを決めて、その中から買い物をする体験 ③500円、1000円など、予算を決めて予算内で昼食を購入し、お釣りを買い体験 ④調理の食材や、おやつや飲み物など、アプリの活動に関する買い物に挑戦する ⑤家族と相談して購入するものや決め、メモ用紙などを用意して「買い物（お買い物）体験」をする ⑥電子マネーを使って支払う（スキルの獲得） ⑦現金で支払う（スキルの獲得） ⑧セルフレジで支払う（スキルの獲得）
家族支援	家族が参加できるイベントの開催	ご家族が参加しやすいイベントを企画して、参加を呼び掛ける。 （親子遠足・夏祭り・あだちーを探せ・合同運動会・家族交流会などを開催） イベント当日は、交流し易い雰囲気づくりを心掛け、交流できる時間を設定する	【目的】 ①ご家族にアプリの活動の様子や雰囲気を見て貰う ②ご家族が集まる場面を作り、交流ができるようにする ③ご家族が子どもと一緒に参加する企画を作る事で、利用日以外の活動に参加する事が出来る ④親子で楽しい時間を過ごして貰う
	送迎の実施	車での自宅への送迎と、送迎時の対面での情報交換	①送迎時に、対面でのその日の活動の様子を伝えて、ご家族と情報を共有できる ②送迎時にご家族からの相談を受けたり、事業所に持ち帰って考える事ができる ③学校からアプリまで車で迎えに行き、アプリから自宅まで送り届けする事で、ご家族が安心して仕事や日常生活を続ける事ができる
	定期面談以外の面談や、相談の受付	ご家族からの相談を受けたり、アプリからの依頼でご家族に来ていただき、日頃の様子を伝えて、今後の支援について話し合う	①送迎時に、対面でのその日の活動の様子を伝えて、ご家族と情報を共有できる ②送迎時にご家族からの相談を受けたり、事業所に持ち帰って考える事ができる
	日々の、アプリでの様子や支援内容の報告や相談	連絡帳・送迎時の対面での報告・電話・メール等を使ってご家族へアプリでの様子を伝えたり、ご家族と相談しながら支援を考えて工夫をする	①日常的に子どもの様子を報告し、ご家族の考えや意向を伺うなど、細やかな意思疎通をおこなうことで、ご家族との信頼関係を築く ②日頃から様々な方法で意思疎通をおこなうことで、ご家族が困った時に相談し易い関係を築く
移行支援	感覚過敏へのアドバイスと工夫	アプリでの環境整備などにより過敏さへの対応をするともに、ご家族と対応や情報を共有する事で、ご本人やご家族が安心して過ごせるようにする	①感覚過敏についての情報を共有する ②感覚過敏への対策を具体的に伝えて、子育てに役立ててもらう
地域支援・地域連携	相談支援専門員との連携	相談支援の担当者や連携をとり、モニタリングへの協力や情報交換を行う	
	ハロウィンイベントや合同運動会などを他事業所と合同で開催		
	学校主催の支援会議への参加		
	ご家族を中心とした学校との情報交換と連携		
職員の質の向上			
主な行事等			